

## 友情の架け橋 ～情操教育を通して～

発表者氏名：	高橋 由美
所属学校：	千葉県大網白里町立増穂小学校
派遣職種：	小学校教諭
派遣国：	ベリーズ
派遣先：	コンパッションスクール
キーワード：	人とのつながり

### 発表要旨：

私は、中米のベリーズで小学校教諭として活動しました。配属先はヨークリーク村のコンパッションスクールという全校80名の小学校でした。主に体育、図工、音楽を子どもたちに教えるとともに、現地教員に指導法の技術移転を行いました。

住まいはホームステイで、ステイ先は配属先の学校がある村にありました。1階がホストファミリーで2階が私の家でした。セパレートタイプだったので、朝と晩は自炊していました。

初めの一年は、言語の壁があり、言いたいことがうまく伝わらず、授業や学校生活の中で何度もくじけそうになりました。しかし、職場の同僚やホストファミリー、村の人々が温かく支えてくれ、がんばることができたと思います。職場の同僚は、私を“ボランティア”ではなく、“学校の一職員”として認めてくれていました。私も学校と子どものためにがんばろうという気持ちが高まりました。

決して、いいことばかりではありませんでした。ホームシックにかかったり、異文化を受け入れられなかったりしたこともありました。つらい時、支えられたのは仲間の存在でした。同じ悩みを分かち合うことで、乗り越えることができたのだと思います。

また、隊員とは、日本紹介のイベントを行ったり、時に余暇を一緒に過ごしたりと、任国で絆を深めることができました。

いろいろな問題はありましたが、ベリーズを第二の故郷であると思えるようになったことは、私の宝です。

言葉、人種の違いがあっても、相手を理解しようとする気持ちは必ず伝わり、いい関係を築くことができます。いい人間関係が築ければ、活動もうまく進むことが多いでしょう。

何よりもこのような友好関係を築くことが国際協力なのかもしれません。

この経験を生かして、日本の子どもたちと世界をつなぐ懸け橋になれるよう、がんばっていきたいと思います。

